

音楽鑑賞教材における一考察

國枝春恵*・高林涼介**

A Study of Teaching Materials in "Music Appreciation"

Harue KUNIEDA and Ryosuke TAKABAYASHI

Abstract

"Music appreciation" education is concerned with the basis for all musical activities. Students must subjectively understand music and perceive its study as the enjoyment of beauty. This research executed a questionnaire on music appreciation education with teachers in charge of music classes at Kumamoto City junior high schools, analyzes its results, considers suitable teaching materials, and investigates new ways to provide music appreciation education in the future.

Key Words: music appreciation, teaching materials

はじめに

現行の中学校学習指導要領¹⁾により音楽授業時間数が大幅に減少し、週5日制の導入等も伴い、僅かの時間の中でのより充実した「音楽鑑賞」教育のあり方が問われている。また、「音楽鑑賞」の共通教材指定がなくなり、「音楽鑑賞」における評価や教材の選択の難しさが伴う。さらに、生徒が「音楽を聴く」という体勢にならない、和楽器指導や校内合唱コンクールの準備に時間を費やされる等、様々な問題があり、「音楽鑑賞」教育を取り巻く状況はとても厳しい。授業担当教師は、この現状を改善しながら、「音楽鑑賞」指導の目標や内容を明確にし、より実践的な授業研究を進めて行くことが求められている。

音楽における「鑑賞」「appreciation」という言葉は、しばしば美的享受という言葉と同義で使われるが、「鑑賞」には価値評価が含まれ、それは批評にも繋がって行く²⁾。「音楽鑑賞」の教育は、すべての音楽活動の根底に関わるものであり、生徒が主体的に音楽を理解して、その美しさを享受していく営みとして捉える必然がある³⁾。

新学習指導要領⁴⁾第2章 第5節音楽では、「表現」及び「鑑賞」についての新しい詳細な確認事項が、第2各学年の内容〔共通事項〕として記載されている。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること。

また、指導についても、新たに、

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 (1) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること、と加筆されている。

新学習指導要領は、来年度からの移行期間を経て、平成23年4月から施行される。しかし、音楽授業時間については、現行の時間数の通りであり変更されていない。詳細に記された新学習指導要領を、現場の教育環境の中で実践して行くには、各教師が、独創的な指導方法等を発案し、創意工夫しながら授業研究に取り組みなくてはならない。

本稿は、熊本市中学校の音楽授業担当教師に、音楽鑑賞教育についてのアンケートを行い、その集計を分析しながら、適切な教材について考察し、今後の新しい音楽鑑賞教育について、一つの提言を行うものである。

* 熊本大学教育学部音楽科

** 熊本大学教育学研究科

方 法

1. 調査対象学校・調査期間

熊本市立中学校38校の音楽授業担当教師に、音楽鑑賞授業についてのアンケートを行った。

調査期間は、7月下旬～8月下旬までとし、22校からの回答があった。

2. 調査内容

各中学校の音楽授業担当教師に、学校名、学級数、生徒数の記入をすすめ、以下の内容のアンケートを行った。

①音楽鑑賞授業の実態について

1. 1年間の音楽鑑賞授業の時間数
2. 生徒の興味、関心、意欲について
3. 1年間に生演奏を鑑賞する機会と回数

②音楽鑑賞教材について

1. 授業で取り上げた音楽鑑賞教材
2. 音楽鑑賞教材の参考資料について
3. 音楽鑑賞教材指定がなくなった後の変化について

結果と考察

①音楽鑑賞授業の実態について

1. 1年間の音楽鑑賞授業時間数は、1年生45授業時数に対し、平均13時間、(約29%) 2年生35授業時数に対し、平均10時間、(約29%) 3年生35授業時数に対し、平均9時間(約26%)と高学年の方が、鑑賞授業時数の割合が低くなっている。また学校差が大きく、1年生の授業時数が、22時間の学校と2時間の学校があった。生徒が静かに音楽を聴く体勢にならないような学校においては、歌唱や器楽の活動⁵⁾による表現の指導に時間数を割いているように

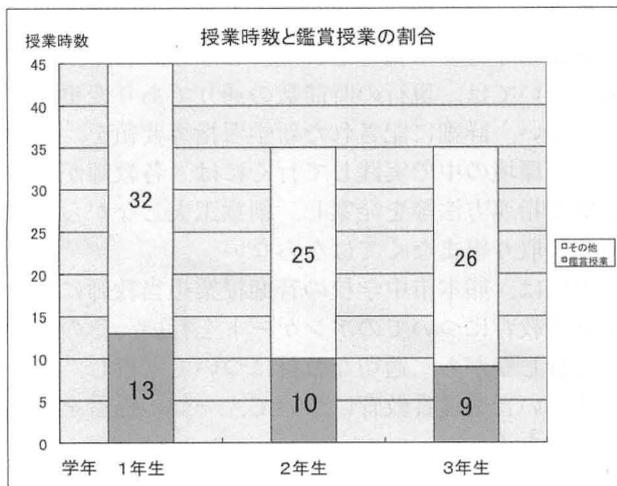


図1 音楽鑑賞授業時数の割合

推測できる。

2. 生徒の興味、関心、意欲については、90%以上の学校において、普通、または高い、と答えており、音楽鑑賞授業の必然性が高いことがうかがえる。

3. 1年間に生演奏を鑑賞する機会と回数について尋ねたところ、回答校22校のうち10校(45%)が、生演奏を聴く機会がないという結果であった。また聴く機会があった12校のうち1年に2回以上は、4校(18%)であった。芸術鑑賞会や文化祭、吹奏楽、合唱発表会等において生演奏を聴く機会があるという答えであった。

生徒が音楽鑑賞授業に興味、関心、意欲があるにもかかわらず、生演奏を聴く機会が大変少ないのは残念なことであり、検討すべき課題であると言える。

②音楽鑑賞教材について

1. これまでに授業で取り上げた音楽鑑賞教材について尋ねたところ、1年生、2年生、3年生各学年における鑑賞教材の曲目、作曲家等を、回答校22校全部が記述していた。内容は、西洋音楽が全体の74%、日本音楽が26%であり、西洋音楽では、管弦楽曲が46%、ピアノ曲が13%、バレエ音楽11%、オペラも11%、声楽曲が12%、ミュージカルが3%、その他が4%となっている。声楽、オペラ、ミュージカル、バレエ音楽を総計すると37%になり、物語的内容がある鑑賞教材の割合が高いことが示唆されている。

2. 音楽鑑賞教材は、何を参考にして選択しているか尋ねたところ、教科書100%、指導書41%、旧鑑賞共通教材64%、授業研究会等の資料18%、その他32%という結果であった。(複数回答可) 少ない授業時間数や、様々な事情で、音楽鑑賞教材の選択にあまり時間をかけられない現状では、教科書を参考にするという傾向が見えてくる。

3. 次に、音楽鑑賞共通教材の指定があった時期と、

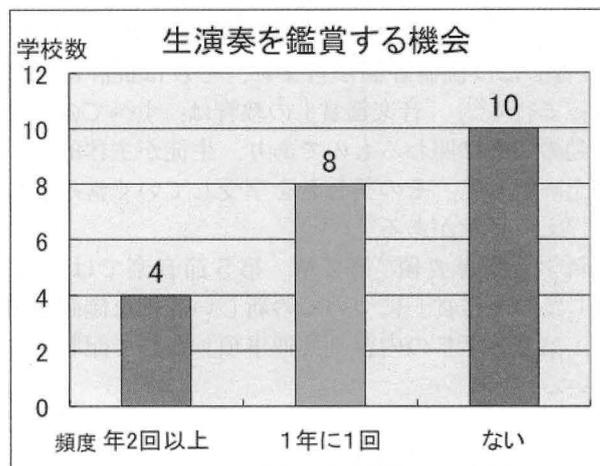


図2 生演奏を鑑賞する機会

なくなった現在の鑑賞教材の変化について尋ねたところ、「教材が増えた」が9%、「少し増えた」が5%、「変化なし」が76%、「少し減った」が5%、「減った」が5%という結果であった。音楽鑑賞教材について、共通指定がないものの、教科書に掲載されている内容を参考にして選んでいる教師が100%という結果との関連性において、教材資料数の変化が少ないという状況がうかがえる。

また、音楽鑑賞共通教材の指定がなくなった現在の鑑賞授業について尋ねたところ、「行いやすい」が27%、「少し行いやすい」が4%、「変化なし」が55%、「少し行いにくい」が14%、「行いにくい」が0%という結果であった。これは、音楽鑑賞教材について、共通指定がなくなったことが、授業の運営にあまり影響を与えていないということが推測できる。むしろ、共通指定がなくなった方が行いやすいという教師が3割近くいることは、特筆すべきである。

4. 表1は、音楽鑑賞教材の一覧である。図3に示されている内容と同様であるが、曲名を省略して記載している。分類についても、アンケート集計上の都合、表記しにくい項目等がある事をお断りしておく。「世界の民族音楽、世界の楽器等」が、「その他」の項目に含まれている。

最も多く鑑賞された作品は、ヴェルディ歌劇「アイダ」100%、シューベルト歌曲「魔王」95%、ラヴェル「ボレロ」95%、箏曲「六段の調」95%、スメタナ「ブルダバ(モルダウ)」91%、J.S. バッハ「小

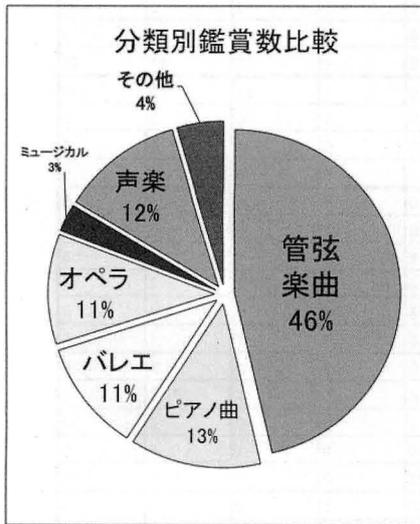


図3 授業における分類別鑑賞教材

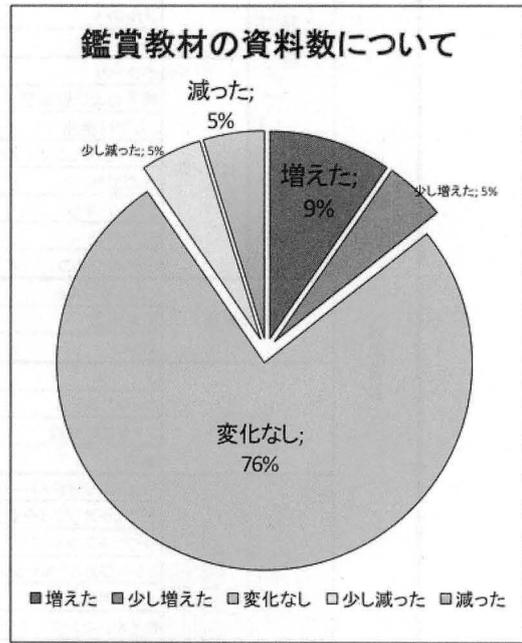


図5 鑑賞教材資料数の変化について

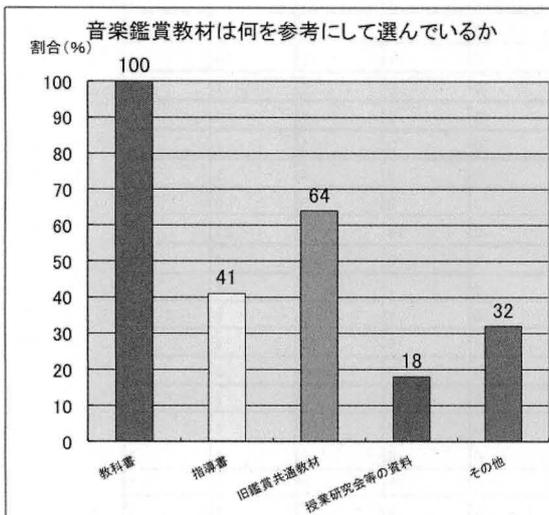


図4 音楽鑑賞教材の参考資料

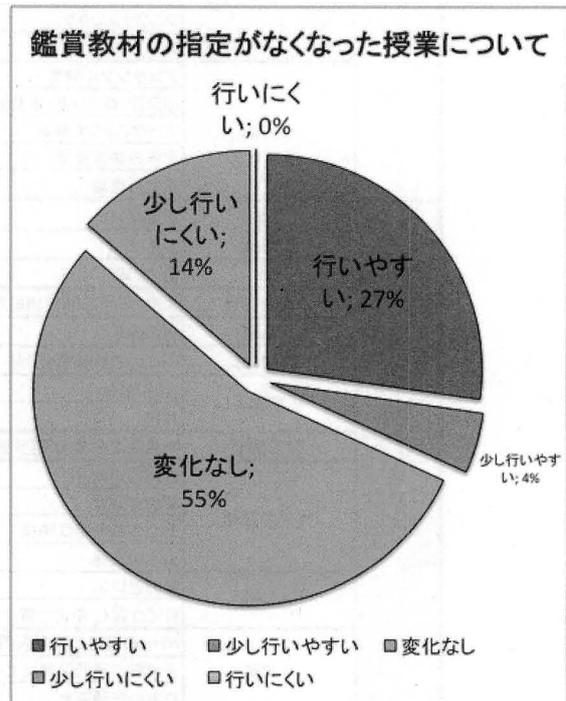


図6 教材指定がなくなった授業について

フーガ」91%となっている。また、ロッシーニ「ウィリアム・テル」5%、ミュージカル「キャッツ」5%であった。

表1 音楽鑑賞教材の一覧

			1年生	2年生	3年生	合計	割合	
西洋音楽	器楽曲	管弦楽曲	アランフェス	0	0	13	13	59
			運命	0	19	0	19	86
			新世界	1	0	0	1	5
			第九	0	2	1	3	14
			展覧会の絵	0	13	0	13	59
			ノヴェンバーステップス	0	0	2	2	9
			春	19	0	0	19	86
			ブルタバ	20	0	0	20	91
		惑星	0	11	1	12	55	
		ピアノ曲	小フーガ	1	19	0	20	91
			鎮子のよい湯治屋	1	0	0	1	5
			トルコ行進曲	1	0	0	1	5
			ベートーヴェンのピアノソナタ	0	1	0	1	5
			水の戯れ	0	0	2	2	9
	ラカンパネラ		1	0	0	1	5	
	バレエ音楽	別れの曲	0	1	0	1	5	
		小犬のワルツ	1	0	0	1	5	
	オペラ	くるみ割り人形	0	1	1	2	9	
		白鳥の湖	0	0	1	1	5	
		ボレロ	0	2	19	21	95	
		アイダ	0	1	21	22	100	
	ミュージカル	ウィリアムテル	0	1	0	1	5	
		フィガロの結婚	0	0	1	1	5	
		魔笛	1	0	0	1	5	
		ウエストサイドストーリー	0	0	1	1	5	
		サウンドオブミュージック	0	1	0	1	5	
		サウンドスケープ	1	0	0	1	5	
	声楽曲	ミュージカル「キャッツ」	0	0	1	1	5	
		メリーポピンズ	2	0	0	2	9	
		ライオンキング	0	0	1	1	5	
		カンツォーネ	0	0	2	2	9	
		サンタルチア	0	0	1	1	5	
その他	野ばら	1	0	0	1	5		
	フニクリフニクラ	0	0	1	1	5		
	魔王	21	0	0	21	95		
	アンサンブル演奏	0	1	0	1	5		
	印象派・ロマン派・古典派のピアノ曲から	0	1	0	1	5		
日本の音楽	雅楽	オーケストラの楽器	1	0	0	1	5	
		世界の民族音楽	1	2	3	6	27	
	歌舞伎	世界の楽器	0	1	0	1	5	
		越天楽	18	0	0	18	82	
	能	勘束帳	0	1	18	19	86	
		能 安宅	0	0	1	1	5	
	人形浄瑠璃	文楽 三十三間堂櫻白楽	0	0	1	1	5	
		凡八曲 塵の遺音	0	0	1	1	5	
	三味線曲	現代の三味線音楽より	0	0	1	1	5	
		さくらさくら	3	0	0	3	14	
	箏曲	六段	2	19	0	21	95	
		和太鼓曲	和太鼓演奏集団「道」鼓動の演奏から	1	0	0	1	5
	郷土の音楽	沖繩の音楽より	0	1	0	1	5	
		郷土の音楽	0	1	0	1	5	
		郷土の芸能中江神楽	1	0	0	1	5	
		日本の民謡	3	0	0	3	14	
	合唱曲	夏の思い出	0	1	0	1	5	
		打てば響く、宇宙に響く	0	1	0	1	5	
その他	NHK古典芸能鑑賞入門より	0	0	1	1	5		
	正倉院の復元楽器による演奏	0	1	0	1	5		
	日本の伝統芸能	0	0	1	1	5		
アジアの音楽	アジアの音楽	7	0	0	7	32		

5. 音楽鑑賞教材についての取り組みについて尋ねたところ、86%の自由記述による回答を得た。以下、その抜粋である。

[教材についての工夫]

- ・教員がお互いに持っている資料音源を使いながらの授業、予算が無いので大変困っている。
- ・導入の教材工夫。聴くだけでなく、視覚的に学べる教材を使用、DVDなど。
- ・DVDやプロジェクターを使い、耳だけでなく視覚に訴えるよう工夫している。
- ・郷土の民謡や芸能もとりあげ、教材化を進めていること。鑑賞と創作を関連させて取り組む時間もとっていること。より素晴らしい演奏のものを選ぶこと。
- ・DVDやプロジェクターを使い、耳だけでなく視覚に訴えるよう工夫している。
- ・いろいろな視点から鑑賞すると楽しいというような取り組み、興味関心をひくような資料を用意する。

[聴かせ方についての工夫]

- ・授業開始時に「5分間鑑賞」としてクラシックを中心に、スポーツやTV番組、映画など身近に耳にする曲を取り上げ、鑑賞に対する意欲付けをしている。
- ・一生のうち一回しか聴かないかもしれない曲もあるので、なるべく全部曲を聞かせるように心がけている。
- ・聴くポイントを提示してから聴く。ひとつのテーマを持って聴く。
- ・毎時間授業の始めに5分以内の曲を鑑賞している。
- ・作曲家の生きていた頃の様々なエピソードを話して聞かせる。
- ・漠然と聴くのではなく、必ず何かポイントを持って聴かせる。そのポイント作りがあると理解しやすく、満足感が得られる。例えば「春」「小鳥は楽しい春を歓迎する」ここでは小鳥たちの鳴き声に注意など。

[表現行為と関連した取り組み]

- ・箏曲の時にはその前後に箏の実技を取り入れている。勸進帳→NHKの義経の紹介。ボレロ→ジョルジュ・ドンのバレエの紹介。魔王→劇。
- ・シューベルトの魔王では、4役にわかれて歌ってみたり、想像して絵を描いてみた。ボレロでは、「はし」をスティックがわりにリズム打ちをした。生徒を鑑賞に参加させて授業作りを考えている。
- ・同じ曲でも指揮者や演奏団体が変わると表現が異なることを比べて鑑賞させる。歌唱教材の時でも関連する鑑賞教材につなげる。主旋律をリコーダーで演奏したり、リズムをまねるなどして印象に残す。

歌舞伎とオペラを比べて学ぶ。曲を聴いてイメージでタイトルを考えさせるなど。

- ・自分が管楽器を吹くので実際に楽器を演奏し、より親しみやすくしている。
- ・演奏家をお呼びして演奏してもらっている。和楽器や日本の伝統楽器は子供たちが興味を持って聴いてくれる。CD、DVDよりも確実に効果がある。
- ・生演奏を聴かせたいと思い、1年生で「魔王」の弾き歌いをして聴かせたり、鑑賞と表現の一体化をさせている。

6. 次に音楽鑑賞授業についての改善策等を尋ねたところ、59%の自由記述による回答を得た。以下、その抜粋である。

[時間数の削減についての改善策]

- ・限られた時数の中で、効果のある授業にしていけるために、教師の創意工夫・研究を深めていくこと、情報や資料を交換したり共有できるライブラリー的な場があればいいと思う。
- ・授業時数が少ない中で、内容を精選していくことが課題。最低でもその曲を聴く時間は必要。説明や指導に要する時間の確保、交響曲を扱う場合などのポイントの絞り方。自分自身の目標としては、一時間で指導できるための内容としてそれぞれの曲の展開が工夫できるといいなと思っている。

[授業改善について]

- ・曲のアナリゼを少ない小節数での取り組みをしていきたい。聞く耳の力をつけていきたい。
- ・これまで(学校行事との絡みからという理由もあるが)歌唱の授業にかたよっていた。新学習指導要領をふまえ、音楽科で子どもが身につける力や「生きる力」との関連を明らかにしながら取り組んでいきたい。
- ・指導者の専門分野の好みによって指導する教材に偏りはないか。皆さんがどのような視点で選曲されているのかを知りたい。

- ・生演奏には敵いませんので、TTやゲストティーチャー、スクールコンサートなどをどんどん取り入れていきたい。大学生と一緒に学べる機会は欲しい。

[授業環境等について]

- ・授業の改善だけでなく、音楽室の設備環境を整える点も必要だと思われる。テレビなどの画面が小さい、音響がよくないなどで、折角の学習曲の感動が薄れる。音響機器の進歩に伴い、学校現場にある機器とのギャップのなかでも、出来るだけクリアな音、映像を使ってよい演奏を聴かせていくようにしたい。
- ・鑑賞するときの環境整備は大切だと思う。視聴覚室でスピーカーからの音で大きな画面で鑑賞できればと思う。

・NHKの放送はまめにチェックして録画してあるが、他のチャンネルや録画し損なった時、貸し出してくれるシステムがあるととても助かる。

まとめ

本稿は、熊本市中学校の音楽授業担当教師に、音楽鑑賞教育についてのアンケートを行い、その集計結果を分析しながら考察してきた。その結果、次のようにまとめられる。

1. 音楽鑑賞授業時間は、高学年ほど減少する傾向にあり、各学校の差も大きい。自由記述の取り組みに掲載した、歌唱、器楽等の活動による表現の指導と関連づけることにより、限られた時間の中での効果的な授業展開が可能になる。

2. 90%以上の教師が、音楽鑑賞について生徒の興味、関心、意欲があると答えているにもかかわらず、生演奏を聴く機会が少ないのは残念なことである。限られた予算の中でも、良い生演奏を聴く機会が得られるよう、公的機関等に要請するべきである。

3. 音楽鑑賞教材の中で、声楽、オペラ、ミュージカル、バレエ音楽を総計すると37%になり、物語的内容がある鑑賞教材の割合が高いことが示唆されている。また、音楽担当教師の教材の参考資料は、教科書100%であった。今後、教科書等に掲載される新しい物語的内容の教材に、より充実した、具体性

のあるものが厳選されることを希望する。

4. 音楽鑑賞教材について、共通指定がなくなったことは、授業の運営にあまり影響を与えていないという結果であった。共通指定がなくなった方が行いやすいという教師が3割近くおり、教材数等も変化がないと答えている。しかしながら、教材の選択は、各教師の裁量に任されている。新学習指導要領の[共通事項]に掲載されている内容を実現可能にするためには、教師が、音楽を形づくる要素等を理解する資質を備えていなければならない。自由記述に掲載した、教師の研究授業における情報交換や研修制度等が、真の意味における音楽鑑賞教材、授業の改善に繋がることを願って止まない。

参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成10年12月告示、平成14年4月施行）
- 2) 平凡社音楽大辞典 第II巻 pp. 646 鑑賞（1986. 5. 15 第9刷発行）
- 3) 金本正武著「音楽教育実践ジャーナル Vol. 2 no. 2」 pp. 6-21（2005. 3. 30 発行 日本音楽教育学会）
- 4) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成20年3月28日、平成23年4月施行）
- 5) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成20年3月28日、平成23年4月施行）